



祝 全中2連覇達成 春日部市立豊野中学校 田中 英夫 監督 インタビュー

——まずは全中2連覇おめでとうございます。2連覇に対してのプレッシャーはありましたか。

田中 よく聞かれるんですけど、プレッシャーというより励みにしてましたね。そういう位置にいる、できる可能性があると言われることが嬉しいというか。期待されてるってことは、やればできるかもしれないってことだと考えて励みにしてました。

監督が緊張したらチームにも伝わってしまいますしね。そもそも関東大会やジュニアオールスターで審判として笛を吹いていたという大舞台での経験もありましたし、全国大会という場で今、監督として立てているという楽しさもあるし、そういう経験が今に生きてきているのかなと思いますね。

——全中を終えて新チームになったわけですが、まず新チームのオフェンスづくりをする上で意識していることを教えてください。

田中 まずはシュート力をつける。確実に決められるときに決められる力をつける、ということかなと思います。フリースローや簡単なレイアップシュートを外さない、というのができてくればチームとして少し計算ができますね。

システムとしては、ブレイク→アーリー→セットというDVDでもやっていたOffの流れは一緒です。どこで点数を取れるか、その核になる選手がまだ決まっていないので、それをこれから定めていかないといけないですね。それをするには、この選手にはこういう場面を用意すれば確実に得点できる、というのを探していかなければいけないので、時間がかかります。それを組み込んで、1試合トータルで60点を取る計算ができるようにOffをつくっていきます。そうでないと勝ちに結びつきませんから。

9月に協会が主催の県大会(埼玉県秋季ジュニアバスケットボール大会)があったんですけど、不思議なことに男女とも優勝できました。メンバーを変えながら試行錯誤したけど、結果的に誰を出してもチーム自体が変わらずに同じ動きができた、っていうのが面白かった。みんなでタイミングドリルをやってるから、システムは頭の中に入ってるってことだと感じました。

——DVDでも解説しているタイミングドリルについて、豊野中学校での取り組み方を教えてください。

田中 タイミングドリル自体は、時間がなくてもやらなきゃいけないものだと思います。特にオールコートでの3人のタイミングドリル。走りながらやるのが重要ですからね。冬場はあれだけで15分間行ったりします。朝練でオールコートをやったら、放課後はハーフコートで、またはその逆でもいいので、必ず3人のドリルを入

れるというようにしてますね。

動き自体はそんなに難しいことはないので講習会でやってもみんなすぐにできます。でも、やっぱりタイミングを合わせるために3人がどうするかというのが大事なので、そこを意識しないと試合では通用しないかなと思いますね。

——ディフェンス面で意識していることはありますか。

田中 ディフェンスは笑っちゃうことに目監督(ガウチョーズバスケットボールアカデミー)のシェルディフェンスですね。あのDVD(下記※欄参照)でやっていることは基礎なので、それをベースにシェルディフェンスからのスクリーンやポストプレーを入れて、ヘルプからのローテーションを足してやっています。DVD見たけど、勉強になりますよ。ディフェンスの再確認にもなるし。



——練習を見ていて、豊野中学校の選手はすごく自主性が高く見えます。指導面で何か意識されていますか。

田中 バスケ部の選手にはいち生徒として、学校全体を引っ張っていくようにしなさいということ求めています。だから生徒会もいるし、学級委員とかも多いですね。中学校生活はバスケがすべてではないしね。それがバスケの面での自主性にもつながってきますから。その日の練習メニューも自分たちで考えて、やりたいことがあったら言ってきます。試合でも、今年のガードはオフェンスの時やることをコールして、相手ディフェンスの状況を見て、全然違うことをやったりしますから。それを怒ったりせずに、どういう意図があったのか聞いてあげることが大事だと思います。

※弊社既刊DVD(下記)のこと。同じ埼玉で中学生を指導している目氏とは親交があるとのこと。



ガウチョーズ・自由紀宏の
「ディフェンスハビット」ドリル

詳細はこちら